

榎野川河口域・干潟自然再生協議会について

榎野川河口域から山口湾に広がる西瀬戸内地域有数の広大な干潟（約 300ha）は、渡り鳥のクロスロード、カブトガニの生息地であり、全国的にも非常に重要な地域である。

上中流域からの浮泥流入、生活排水対策の遅れによる富栄養化等によりカキの異常発生があるなど干潟生態系の改変・改質が生じており、平成 14 年 6 月には「やまぐちの豊かな流域づくり推進委員会」が設置され、平成 15 年 3 月には「やまぐちの豊かな流域づくり構想（榎野川モデル）」が策定された。
平成 14 年度から、自然生態系の保全・再生に向けた計画策定のための調査を実施。

「やまぐちの豊かな流域づくり構想（榎野川モデル）」の策定を受け、平成 16 年 8 月に自然再生推進法に基づく「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」を設立。

（榎野川河口域・干潟の自然環境を再生し維持していくことを検討。）

平成 17 年 3 月には「榎野川河口域・干潟自然再生全体構想」が作成された。

第 1 回自然再生協議会（平成 16 年 8 月 1 日）

・協議会の設立

第 2 回自然再生協議会（平成 16 年 11 月 20 日）

・全体構想（素案）の協議

第 3 回自然再生協議会（平成 17 年 3 月 6 日）

・全体構想（案修正版）の協議、了承

榎野川河口域・干潟自然再生全体構想 作成（平成 17 年 3 月）

第 4 回自然再生協議会（平成 17 年 8 月 8 日）

・ワーキンググループの設置

第 5 回自然再生協議会（平成 17 年 11 月 23 日）

・ワーキンググループの活動報告

第 6 回自然再生協議会（平成 18 年 2 月 5 日）

・ワーキンググループの活動報告

第 7 回自然再生協議会（平成 18 年 4 月 29 日）

・第二期協議会委員就任等について協議

「榎野川河口域・干潟自然再生全体構想」の概要

自然再生の対象となる区域

榎野川河口域から山口湾内の干潟等

自然再生の基本的な考え方と方向性

自然再生の3つの視点(流域構想等を踏まえ)


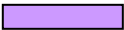





- ・ 榎野川河口干潟等の生物多様性の確保
- ・ 多様な主体の参画と産学官民の協働・連携
- ・ 科学的知見に基づく順応的取組

人が適度な働きかけを継続することで、自然からのあらゆる恵みを持続的に享受できる場、いわゆる『里海』の再生を目指す。

自然再生の目標

『里海』の再生

具体的な目標 <自然再生ゾーニング>

-  : 豊かな泥干潟の区域
-  : 豊かな砂干潟の区域
-  : カブトガニ産卵場保全区域
-  : 豊かなアマモ場・浅場
-  : 豊かな泥浜・レク干潟
-  : 豊かな後浜(背後地)の区域
-  : 現状干潟の観察・維持区域

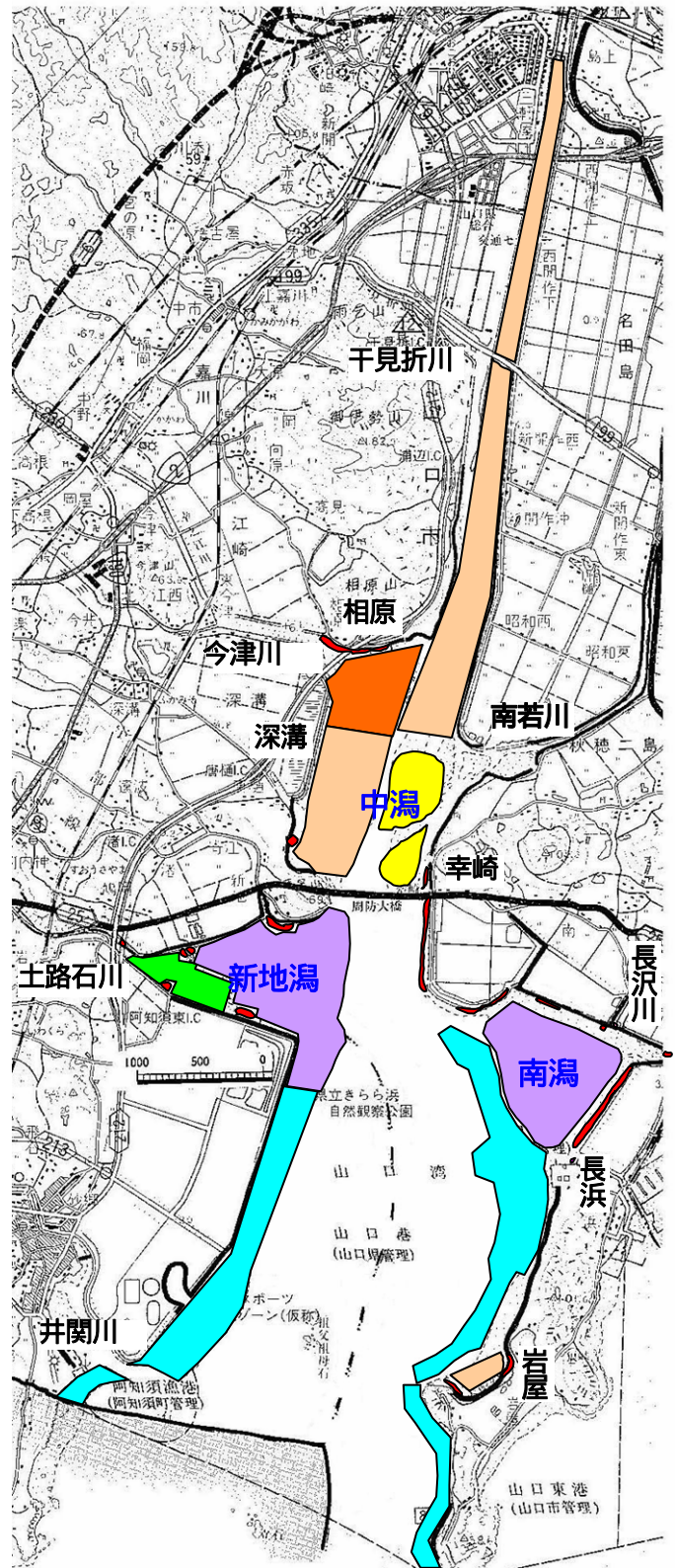
自然再生協議会の構成員

専門家 9、個人 15、団体 18、

関係地方公共団体 11、関係行政機関 4

合計 57(個人・団体)

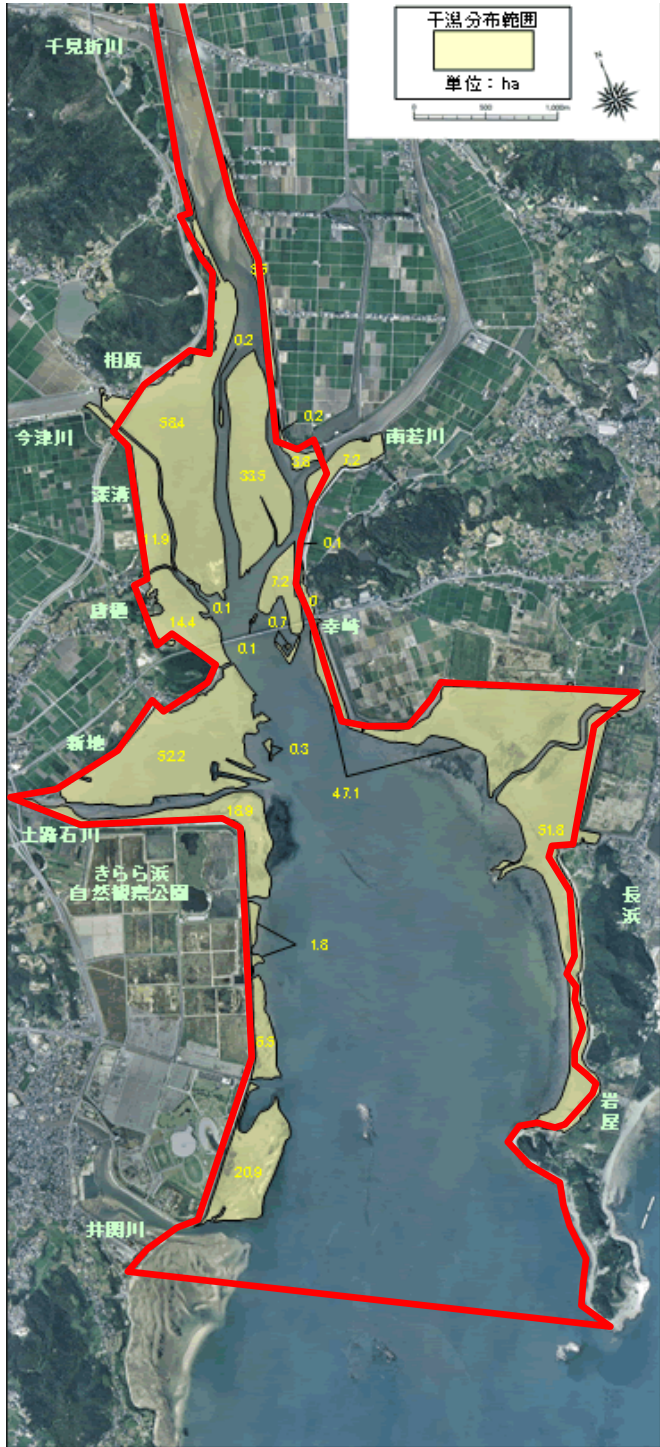
平成 18 年 9 月現在



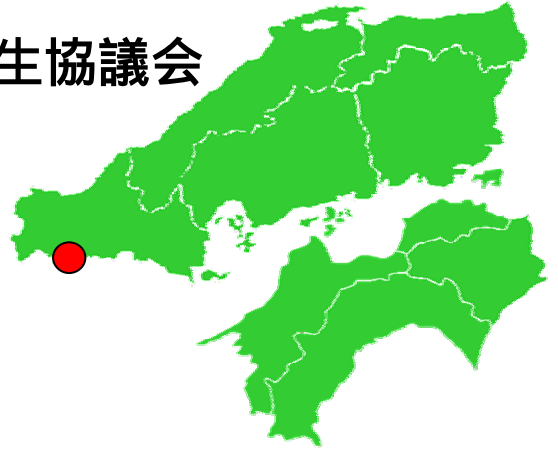
ここに示すゾーニングはイメージであって、具体的な検討はそれぞれの事業主体において、行われるものである。

自然再生ゾーニング

ふしのがわ
榎野川河口域・干潟自然再生協議会



自然再生の対象となる区域
 (全体構想より)



カキの著しい増殖



硬質化、無機質化した干潟



干潟の人手による耕耘試験



カブトガニの産卵場の保全